

## 一 齊法要のご報告

【令和二年】

### ○新年祈祷会

一月九日、新年祈祷会が行われました。

大般若法要では多くの御寺院様にご随喜いただき、新しい年を迎え檀信徒各家皆々様の「家内安全」を祈念致しました。

当日は、総勢二百六十名を越す方々が集まり、一緒に読経しご焼香をしていただきました。新年恒例の福引大会も、皆様楽しそうに笑顔、笑顔。金賞、特賞があたるかとドキドキ。

最後は大元組による和太鼓の奉納演奏。「仏様のご縁か、善光寺と縁を頂いてから多くの場所ではばれるようになり活動の幅が増え、海外でも好評を頂いています」と檀信徒の皆さまに

## — ニュース・アラカルト —



感謝のご報告。迫力の演奏で今年も始まりました。

### ○節分追儺法会

二月三日、節分追儺法会が行われました。

新年同様、大般若法要では多くの御寺院様にご随喜賜り、檀信徒各家皆々様の「除難招福」を祈念致しました。当日は、総勢三百三十名以上の方々のご参集。

新年に引き続き和太鼓大元組による奉納演奏。目前で打ち鳴らされる和太鼓の響きは腹の底にズシン、ズシンと届き、演者のハツラツとした動きに熱いエネルギーを頂きました。

最後は恒例の「シャンシャンシャン、オシャンヤのシャン」との住職の掛け声により「福は内、福は内」。

会場一つになつての豆まきを行いました。

鬼を払って福よ来い！

## — ニュース・アラカルト —



## ○春彼岸法会以降 一般参列中止

今年の春彼岸・孟蘭盆会・秋彼岸は「新型コロナウイルス感染拡大予防」の為に、一般参列は中止させていただき、僧侶、総代など数名での法要を執り行いました。

毎年の恒例行事がこのような形になり大変心苦しく思います。それでも檀信徒の皆様と共にお勤めしているが如く、精一杯つとめさせていただきますました。

孟蘭盆施食法会と秋彼岸法会に際しては、檀信徒の皆さまそれぞれ、ご家庭で同時刻にご一緒におつとめをしましょうとお声かけさせていただきました。多くの皆さまがその時間一緒におつとめ頂いたとのお話をして下さり、離れていても心がつながっていると感ずることができました。

また不自由な状況にも関わらず、前年を上回るお塔婆の申し込みをいただき、参列できなく

## ニ ュ ー ス ・ ア ラ カ ル ト

でもご先祖様のご供養をおつとめしたいとの檀信徒の皆様のお気持ちに触れ、大変心温まる思いです。ご先祖様を大切にすることは、自らを大切にすることでもあります。皆様のご供養のお気持ちが巡り巡って皆様に福樂をもたらします。

「新しい生活様式を」と言われる中、皆で集まり袖ふれあつて、大きな声でお経をお唱えすることも難しい状況ではありますが、できることを模索しながらこれからも皆さまの供養の気持ちに応えて参ります。



## ○身代不動明王大祭

五月二十八日、身代不動明王大祭を執り行いました。

山内スタッフ数名のみでの法要でしたが、いつものように大般若を転翻してのご祈祷を行いました。今年は特に疫病退散。見えないウイルスの脅威に負けないように、檀信徒の皆さまのご健康を祈念申し上げます。



## — ニュース・アラカルト —



## 坐禅研修会

今年は一月に企業研修坐禅会、二月にボーイスカウト坐禅会が行われました。

恒例のボーイスカウト坐禅会では、早朝よりお子様と保護者合わせて八十名を超える方が静寂の中参禅されました。坐禅後は住職より涅槃図のお話。小さいお子さんたちもみんなと一緒に一生懸命頑張りました。

※新型コロナウイルス感染拡大防止の観点から大人数での坐禅研修会はしばらくお休みさせていただきます。詳しくはお問合せ下さい。

## ニュース・アラカルト



## 水墨画と能のコラボレーション

二月十二日、「大人の休日倶楽部・趣味の会ツアー」のご一行が善光寺に来山されました。

「寺院水墨画と能のゆかりの地めぐり」と題されたツアーは、水墨画家で作家でもある東野光生画伯の水墨画を背景に、シテ方金春流能楽師の山井綱雄先生の謡と舞を堪能するというジャンルを超えたコラボレーション企画。

今回の題材は、幅十五メートルにも及ぶ大作の障壁画「臨照図」。大作ゆえ普段は大切に収納しておりますが、当日は釈迦殿の窓際一面に展示しました。この作品は善光寺開創二十五周年記念事業の一貫としてお納め頂いた作品です。東野先生はその後も「十六羅漢図」など素晴らしい大作を納めて下さっています。

今回改めてこの大作を前にして、住職共々そ

## — ニュース・アラカルト —



東野先生、住職、山井先生

の素晴らしさに引き込まれました。  
山井先生の能の演舞は普賢菩薩をテーマにしたもので、奉納された舞や謡が釈迦殿を心地良い静寂でみたくしてゆきました。

## 熊谷豊太郎氏 逝去

令和二年三月二十八日、善光寺名誉総代熊谷豊太郎氏が逝去されました。数えで一〇四歳。

善光寺と熊谷氏とは昭和四十六年熊谷氏のお母様のご葬儀からのご縁でした。

プレス工業株式会社取締役として活躍されている中、快く総代を引き受けて頂いて以来約半世紀、寺の歴史を共に歩みました。先代住職亡き後も毎月二十九日の月命日には欠かさずお参りに来られました。

一斉法要では檀信徒の代表として毎回大きな声でご挨拶を下さり、寺と檀信徒の心のかげ橋を永くおつとめ下さいました。

衷心より謹んでご冥福をお祈り申し上げます。

## ニュース・アラカルト

### 熊谷筆頭総代さまとの思い出

黒田 博志

熊谷豊太郎筆頭総代様。筆頭さまを思う時まず思い出すのは、師父大圓武志大和尚の月命日に必ずお寺にお参りに来て下さったことです。

平成十六年十二月二十九日に師父が遷化し、年が明け通夜、葬儀。その月の二十九日の月命日のご供養から毎月必ずお参り下さいました。

右も左も解らない状況で住職を拜命し、不安な気持ちでいる中、毎月筆頭さまがお参りに来て下さり、いろいろなことを相談しご指導頂きました。そのお陰で私の中でいっぱいになっていた不安が、だんだん払拭されていきました。あの時ご指導いただきましたことは、今の私にとつととても大きな財産となっております。

またお檀家を代表して、育英会の理事も永年勤めて頂きました。理事会の懇親会では、必ず

戦争のお話をして下さり、そのお話に惹きこまれてあつという間に時間が過ぎてしまったことを思い出します。

よくお食事もご一緒させて頂きました。私との歳の差は約六十歳ですが、召しあがる量は私と変わらず、ときには筆頭さまのほうが多いくらいでした。でも野菜はお嫌いでしたね。野菜



## — ニュース・アラカルト —

の料理が出されると、お皿をご自分の箸が届かないところに遠ざけたり、私に下さったりして全く口にされませんでしたね。長生きに野菜は関係ないのではないかと、思ったことを思い出します。

行事の度にご挨拶をお願いし快くお引き受け頂きました。お檀家さんへお伝えする内容をよくまとめお話しして下さいました。勉強家で仏教のお話もして下さいましたね。お檀家の皆さんに囲まれ、「人生百年時代」の模範のようなお姿を昨日のことのように思い出します。

いつも、温かいお心遣いを頂き、お寺のこと、お檀家さんのこと、山内スタッフのこと、家族のこと、私のことを気にかけて頂き本当にありがとうございます。筆頭さまから頂いた御恩情に感謝申し上げます、ご安心していただけるように日々精進して参ります。衷心より篤く御礼申し上げます。ありがとうございました。



## 花まつり

四月八日は花まつり、お釈迦さまの誕生日をお祝いする行事です。

日本では、推古天皇の時代（六〇六年）、およそ一四〇〇年前に行われたのがはじめといわれています。明治時代に入ると、お釈迦さまの誕生日がちょうど桜の季節であることから「花まつり」という名称が多く使われるようになりました。

花まつりの際には、お釈迦様がお生まれになられた日に、甘露の雨が降ったという故事に基づき、誕生仏に甘茶を灌ぎお祝いを致します。

来年は皆様と一緒に参り出来ることを願っております。

ニユー・アラカルト



## ●●●●●●●●●●●●●●●●●●●●●●●●●●●● 岑翠前会長の書を御寄贈頂く

全日本新芸書道会会長遠藤吟翠様より同会前会長の故遠藤岑翠師の書をご寄贈頂きました。

昨年、岑翠前会長ご逝去の際に、博志方丈が遠藤会長に「是非、お寺に岑翠先生の作品を御寄贈願えれば……」とお願ひしたところ、快く応えて下さり、今回の運びとなりました。

善光寺とのご縁深い全日本新芸書道会。博志方丈をはじめお寺の僧侶も同会に所属して研鑽を積んでおります。

実はこの秋、第九十九代内閣総理大臣になられた菅義偉衆議院議員も昭和六十年頃より同会で書に親しみ、前会長のもとで手ほどきを受けておられたとのこと。気になる総理の筆さばきについて、遠藤会長は「会の大家らは『菅総理の書を』決して達筆ではないが……』という

## — ニュース・アラカルト —

枕詞をつけつつも『実直さが表れている』と口を揃えて仰ってます」と明かしてくれました。現在も菅総理は同会の名誉顧問として名を連ねておられます。

「意志あれば道あり」と書かれるその言葉通り、強い意志で道を歩まれる菅総理。地元選出の総理大臣の誕生に善光寺も寺の理念、その志を掲げ、しっかりと道を歩むべく、気持ち新たに致しました。





# 大本山永平寺ご住職に 南澤道人禪師が御就任

令和二年九月二十九日大本山永平寺貫首福山諦法猊下が退董され、同日付にて大本山永平寺副貫首南澤道人老師が大本山永平寺第八十世貫首に就任されました。

善光寺と致しましても南澤禪師には、善光寺留学僧育英会の名誉顧問を長くおつとめ頂き、また平成七年当寺開山榎庵白純大和尚十七回忌法要ではご導師をお勤め頂くなど親しくご縁を頂戴しております。博志方丈も永平寺で修行中、監院のお役でいらつしやった南澤禪師に大変お世話になりました。

これに伴い新たに群馬県迦葉山龍華院ご住職羽仁素道老師が副貫首に就任されました。羽仁老師は本寺大田原光真寺の黒田泰弘老師の奥様

## — ニュース・アラカルト —

のお父様であり、善光寺も親戚として大変親しくご縁を頂戴しております。天狗で有名な群馬県沼田市迦葉山には平成十八年善光寺旅行会で参拝しております。





## おうちで「写経・写仏のすすめ」

今春、緊急事態宣言の発令をうけ、外出自粛やテレワークへの移行などで多くの方が自宅で長時間を過ごすこととなりました。そのような「ステイ・ホーム」の状況に、善光寺では写経・写仏をおすすめ致しました。

写経・写仏は自分を見つめる修行でもありません。自分自身を見つめ、仏さまの御心とひとつに過ごすことで、穏やかに日々を過ごすきっかけとしていただければ幸いです。

お盆のご案内と一緒に「写経・写仏セット」をお送りしたところ皆さまからたくさんさんの写経・写仏が届きました。

丁寧に書写された写経や思い思いの色で彩られた写仏を見ると皆さまの清らかな仏心を感じ、有難い気持ちでいっぱいになります。お納

## ニュース・アラカルト

め頂いた写経・写仏は今後、観音堂へ納経を致します。

一回目のお写経は『延命十句観音経』、写仏は三喜庵先生の仏画（『成寿』四十九巻の表紙）でした。

続く二回目・秋彼岸の案内では「写経・写仏セットその2」として『妙法蓮華経観世音菩薩普門品偈』。長いお経なので数回に分けてお写経頂く第一回目。仏画は釈迦殿客殿にある絵皿から写仏して頂きました。

新型コロナウイルス感染拡大防止の為不自由を強いられる中、少しでもやすらぎの時間をお過ごしいただきたいと始めた企画。多くの反響を頂いております。今後も続けて参りますので是非チャレンジして下さい。



写真上＝「切り絵で写仏」  
野倉高明様より

写真右＝皆さまから寄せられた  
多数の写経・写仏

— ニュース・アラカルト —



